

第6号

令和6年10月31日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

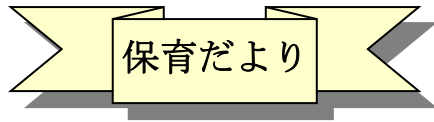
★ ちょっとしたこと、人生は好転する！

「さざんか さざんか さいたまち たきびだ たきびだ おちばたき あたろうか
あたろうよ しもやけおててが もうかゆい」童謡「たき火」の二番です。

咲く花がめっきり少なくなつて木枯らし一号が吹くころ、冷たい北風にもめげず、じっと耐えて花を咲かせる姿から、花言葉は「下向きな愛」「謙虚」、またその寒さにも負けない凛々しい姿から「困難に打ち勝つ」「理想の恋」などが名付けられました。渋めの一輪挿しやブルーのカットグラスなどに生けると、和の雰囲気を楽しめます。

私は時々夢を見ます。それは目覚める少し前の夢ですと、目覚めてもしばらくは残るもので、まどろみながらはんすうして居ると、自分の声として自分の内から生れて来た事として、現実味を帯びて考える事があります。目の前の事に心を奪われて生きる日々なのですが、今の君は、それで良いのかい、一生懸命生きてるのかい、そんな声が、天からか、父母の声なのか、自分の心の内からなのか分かりませんが、いつも聞こえて来るのです。しかし、自分で見る夢は、確かなものと受け止めて実行したくなる事が、これまでに幾つかありました。よわい70歳代の半ばを迎えますと、何と言っても決め事が遅くなるものです。あれやこれやと思いを巡らすのです。物事を肯定して生きることが、失敗も少ない悔いも残らないと言う思いで生きようとして居ますが、残念ながら掘り下げれば出て来るものです。幾らでも出て来ます。今のあなただったらどうしますか？と問われたら、やっぱり同じやり方で生きるんだろうな！思うのです。今までの生活の一コマ一コマを取り上げてみても、その時はその時で、逃げたりしながらももがきながら不安を抱きながら前を向いて生きたのだらうと思いたいですよね。それでも、何かのきっかけで、今につながっている事は、どなたにも意見としておありかと思えます。それは、大きなことなのかとも知れませんが、ちょっとしたきっかけやちょっとした出会いや言葉が心に響き、今に続くことも度々あることも経験してきました。それは思い起こしても愉快で楽しい出来事で、生涯の宝物になります。これは、求める心が無くてはなりません、自分が置かれている周囲から思わぬ形で舞い込んで来たり、自然や社会から頂いて育てられたと言う実感も皆さんもお持ちだと思えます。

さて、幼稚園に目を転じてみますと、幼稚園の生活の中にも沢山の「きっかけ」が毎日毎日生れております。あらためて申すまでもなく、幼稚園は人間の幹を作るところ、土台を作るところです。生涯にわたって必要な心の柱を作るところです。一年の季節の変化の中で、自然の凄さや不思議なことごとに感動し、自分と違う価値観を持つ人達から歓びを貰い、全てが次なる意欲につながるのです。毎日「きっかけ」を体験しております。この時代に必要な意欲を育てる体験を大事にしてやることなのだと思うのです。この幼児期に器を広げて、ゆたかに生きる人生を応援して参りましょう！



第7号

令和6年11月29日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

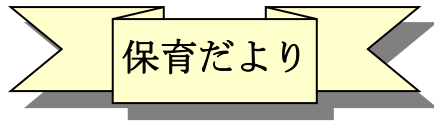
★ 周囲は自分を写す鏡！

今月の花は、シンピジュームです。品格のある姿、控え目な色あい、そしてかすかな芳香を持つシンピジューム。胡蝶蘭と共に世界に誇れる日本の園芸文化のすばらしさを表します。花言葉は、イメージそのもので「飾らない心」「高貴な美人」「素朴」と名付けられました。シンピジュームは寒さに強いので栽培が比較的容易です。冬は室内に入れ水を少なめにやり、春から秋までは木漏れ日程度の日陰に置いて水をたっぷりやれば、翌年またきれいな花を咲かせてくれます。花言葉を添えて花を贈れば、贈る人も貰う人も幸せな気持ちに成れます。お花屋さんで出会う人たちの表情は、誰もが素敵ですよ。

みんなと仲良く生きて行けることは幸せの道です。と言う教えは、いろいろな機会にいろいろな形で教えて貰い気付かされて来ました。それは相手を良く知ること、理解しようとする気持ちを養う作業でもあります。相手の話を良く聞くようにして寄り添うことの努力から、理解も深まり好感を持てるようになって来るものです。長い間、家族を始め知人友人の支えがあって、社会で生きて来れたのです。共に一生懸命に生きた友が居てくれて生きてる証を持てたのです。同じ目標をもって生きた人が居てくれたことで生き抜けたのです。自分には到底及びもつかない人だらけの中で生きられたのも、話の出来る友が居てくれたからだと振り返ります。そんな中で自分はどうか？と問われると、自分を振り返る具体的なことが思い出せず、甚だ心もとないのです。自分への評価は人様に言える程のものもなく、幼少の頃から注意を受けて来た事も心に生き付いて居るのか？自分の事を一番知らないのが自分かも知れません。しかし生きて行かなければなりませんので、時々のお机に出会う嬉しい励ましの機会や人に出会い、軌道修正をしながら生きて居るのが現状です。

近頃は、来園される一人ひとりに聞くのです。会社を背負い家族を背負い、それぞれの役目と夢を抱いて来て下さる業者さん方ですが、この幼稚園業界で生きて行くとしたら、訪ねて来てくれた方に、それぞれに立派に活躍されている人ですから、どんなことを言ってくれるかが楽しみなんです。多くは子ども達向けの商品や情報を持参して訪ねてくれるのですが、私が保育士さんだったら、私が運転手さんだったら、私が園長職に在ったらの思いを聞かせて貰うようにしています。そして、社会人として立派に役目をもって生きている一人ひとりの思いを聞かせて貰える機会は、とても貴重です。職員の皆さんと作り上げている集団ですから、少しでも一人ひとり成長に寄与できる環境人集団でありたいと思うのです。

子ども達もそうですが、**周囲は自分を写す鏡！**と言われます。良いこともそうでないことも批判する立場ではないのです。構えて行けば相手も構えます。自分の事は相変わらず分からないことばかりですが、やはり人生は自分探しの旅とも言えるかも知れません。周囲の人が教えてくれていることを受け止めながらの旅なんですね。



第8号

令和6年12月20日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ 心のふるさと！

ふるさとはどこですかと あなたはきいた この町の生れですと わたしは答えた
ああ、そしてあなたがいつの日か あなたのふるさとへ つれて行ってくれる日を
夢みたの 生まれたてのこの愛の ゆくえを祈ったの

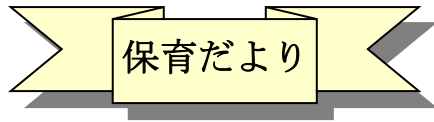
ふるさとはどこですかと 私はきいた 南の海の町と あなたは答えた
ああ、そして幼い日のことを 瞳をかがやかせ 歌うように夢のように話したわ
ふたりして行かないかと 私にはきこえたの

ああ、だけど今では思い出ね あなたはふるさとへ ただひとりただひとり帰るのね
ふるさとはそんなにも あたたかいものなのね

その昔テレサテンが歌っておりました歌です。会うは別れの始めとは、どなたが言った言葉でしょうか。今年も親しくお付き合いをして下さった人とのお別れを忍んで涙する日が多くありました。そして、その方々が、いろいろな思い出をお土産として置いて行ってくれました。お別れの度に自分の今あることを顧みるのです。亡くなった方ばかりではなく遠方へ引っ越されることでの別れも最近経験をしました。当然お世話になった方なのですが、郷里の山形県の月山のふもとで営んでいる歯科医院で、院内を改装してお父上に関わって来た患者さんを超えて、新しい息吹をもって地域の人達への貢献を期待するものです。歯が整うと笑顔で世の中に向かって生きられます。そして、何でも美味しく頂けることが嬉しいですね。この世は会者定離とは申せ、一人ひとりの人生に触れ合っている今を大事に考えることは、生きてる喜びを一層深く感じられることにつながるように思います。そして、今ある、その方のこれまでの生い立ちや環境を知ることによって理解を得られる喜びも生れるものです。

あなたの心のふるさは、どこにありますか。父ですか、母ですか。幼い頃に育った環境ですか、その後に出会った人たちですか。お付き合いや出会いが始まると、自然とその人のルーツ、故郷が聞こえて来るものです。一人ひとりの故郷がありますので、今やらなければならないことに追われる毎日ですが、お逢い出来た方の故郷をお聞きできるひとは、私の喜びの時間に成ります。お話をしてくれる、故郷につながる今を聞かせて貰える。どなたにも楽しいこと、忘れられない頭をよぎることなどを携えながら、また乗り越えて今を生きる姿を考えると、自分の生き方の羅針盤にもなって居るので。年の暮れを目の前にして、一年を振り返る静かな時間は、一人ひとりに、ありがとうございます。と言う気持ちに成ります。皆さまにも、ありがとうございます！

健康で喜びに沢山出会える年に成りますよう、お祈りいたします。



第9号

令和7年1月31日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

★ しなやかに生きる！

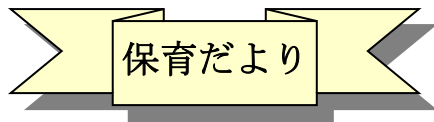
分からないことばかりですが、家族や周囲の人と話し合ったりしながら一つの考えを見出だして生きている現実があります。自分のこと以外はすべて他人事ですから、自分の経験した体験や想像を駆使して状況や心情を思い描くのですが、此れも分からないことばかりです。それでも、その現実を自分に当てはめて楽しくも嬉しくもなるのですが、普段から気を付けて生活している私達ですが、思いも掛けない事故や事件、そして犯罪などの報道などは論外なのでありますが、病気や怪我などは、誰にも身近に起きることでもありますので、幸不幸や不運などの基準判断を超えて、自分のこととしてよい状況に向かうことを願うのは、どなたも同じかと思います。近頃は、普段の賑やかな活動と同列の放映される現実慣らされて来てしまっておりますが、命と向き合う現実とは、一線を隔すべき事だと思います。取り分け、お付き合いの長かった人、お付き合いの深かった人、身近にある人ほど、その状況に寄り添い共に歩む気持ちは、これまで力を貰って来たこと以上に自分の命の灯をささげる気持ちに成るものです。これは、これから自分の歩みにも降りかかることとして、ある種の覚悟や準備をして一日一日を生きることも必要なかと思っております。

一方で、普段の生活では、嫌なことがあっても、これでおしまい。そう心をきりかえて、**楽しく笑顔で生きる！** 北海道地方にも、良いんでないかい！ 仕方ないべさ～！

また沖縄には、ていげな～精神で、なんくるないさ～！ などなど、心を楽にして生活する術を身に付けております。いろいろな自然環境に合った中で、いろいろな思いもよらない事に遭遇して居ても乗り越えて生活が流れて行けるんですね。

人間の心には環境にそして状況に適応できる能力が備わって居ることも、すごい事であると感じるのですが、この、しなやかと言っていいかと思いますが、また、ひとつ心の中には、元の状態に戻そうとする「復元力」と言う、伸びてしまったバネが元に戻ろうとする力ですが、絶望的な状況と思われる人も、その現実を受け止め前に進もうとする姿勢は、私達も目にするところです。このような気持ちを発揮するには、一つ大切なコツがあるのだそうです。それは負の感情にふたをしないと言うことだそうです。良くある誤解は、「くよくよしたり、悲しんだりすることをやめて、早く前向きに切り替えなければならない」と言うもので、くよくよすると余計に病気が悪くなると考える人もいるおられるようですが、不安は未来に備える感情です。早く気持ちを切りかえたいのであれば、悲しい時にはしっかり悲しむことです。しっかり悲しんでいると、徐々に「起きたことはもう変えられない。これからの時間をどう生きるか考えよう」と現実を受け止めて未来に目を向けようと言う変化が起きて来るのですと専門家の先生がおっしゃっております。

今ある周囲の人のお陰で、心も自由に生きて行きたいと思うのです。



第10号

令和7年2月28日

庄和すずらん幼稚園

保育随想

●幸せってどこから！

梅は咲いたか桜はまだかいな～？春を待つ気持ちを歌ったものですが、誰もが寒いそして例年になく寒波の襲来は、大雪をもたらす生活の中でも命に係わる状況が報じられております。日本のどの地域にも危険と向かい合わせの、そして背中合わせの環境下で、季節が回り春を待つ気持ちは同じであります。地球有史以来季節が移り変わる営みは続いて来たのですが、近年の今までと変わって来た気候変動は、現状もそうですが、これからに不安を抱かせるものを感じます。今までもこれからも、大きな自然の営みの中で生きて行く私たちですので、災害や事故、生活全般にわたる人間生活に、幾らかでも悪い形で影響を避けて暮して行きたいものです。そんな環境下ではありますが、人間はこれからの生きる先に希望を見出し家族や友達と支え合いながら、喜びを生み出す力を持っています。自然の中で咲く先に述べた梅にも、風待ち草、春告げ草などと言う別名も付けられています。健康に生きるための活動も楽しんで生活に取り入れています。どの領域もそうですが、これらの興味関心、得意不得意の意識は、社会人に成るまでの環境や体験から来るものが大きく影響するものと受け止めております。人生に喜びを見出す作業は生きる核づくりに成るものです。日々の生活の中にも、楽しみや喜びを見付けて生きられる人は幸せです。いろいろな環境下にあっても、前向きに生きる気持ちを抱ける人が居るのです。それぞれの方法で楽しみを見出している人に出会えることが、自分を顧みる機会にもなります。この地球上でそれぞれ人が、そんな気持ちで生きているのですから。この季節を迎えると、早春賦の歌詞の一節が浮かぶのです。

これは、作者が長野県安曇野を訪れて安曇野の早春の寒さ、そして春の暖かさを歌った歌詞と言われています。

春は名のみ風の寒さや 谷のウグイス歌は思えど 時にあらずと声も立てず
時にあらずと声も立てず 氷解け去り葦は角ぐむ さては時ぞと思うあやにく 今日
昨日も雪の空 今日昨日も雪の空 春と聞かねば知らでありしを 聞けば急かる胸
の思いを いかにせよとのこの頃か いかにせよとのこの頃か

寒村の雪山を眺めながら、木々の陰に姿の見えぬ小さく息づく命のウグイスの心情に思い至る丁寧な心遣いの作者に感動するのです。そして作者の生い立ちにも思いを馳せるのです。

私達は、目の前のことに心を奪われすぎて、これから先につながることにまで思いを馳せることをしなくなっているのではないかと、このような歌の世界に触れると思うのです。考えるためには、孤独が必要なのではないか。人が自分自身と一緒に居ることが出来ないと寂しさを感じてしまうのも陥りやすいところです。残念ながら人が居ないと寂しさを感じてしまうのは、自分自身と居られない時があるからで、自分自身と向き合っている状態を手に入れることはさほど難しくないと思うのです。一つの事を自分なりに答えを導き出すのは時間が要ります。時間が必要ですが孤独の時間は、幸せを生み出す時間と受け止めて孤独を怖がらず前を向いて進んで参りましょう。